

景気動向調査 令和5年10月分（令和5年10月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

この事業では、県内の主要業種46組合に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告(前年同月比)を収集しています。

【10月の景況】

10月のDIは、9指標のうち、4指標が好転、3指標が悪化、2指標が変わらずという結果となった。主要3指標は、好転もしくは変わらず。先月と比較して、売上高DIは4ポイント好転、収益状況DIが2ポイント好転、景況感DIが変わらずという状況となっている。

なお、原油や原材料の価格高騰による価格転嫁を受けて、販売価格DIは高止まりしており、+43ポイントと過去10年で最も高い水準にある。

調査員からは、人材不足による生産能力や販売能力の低下、物価高騰による消費の冷え込みを心配する意見が寄せられた。また、10月からスタートしたインボイス制度については、対応の細かい点に慣れないなどといった声があった。



景況感 DI 値

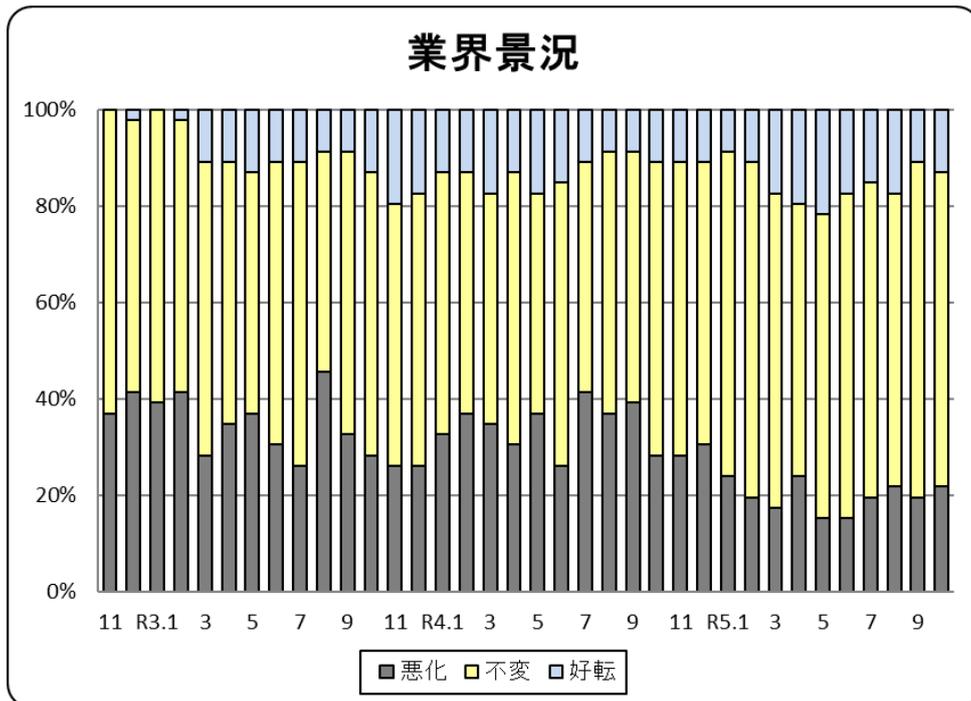


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

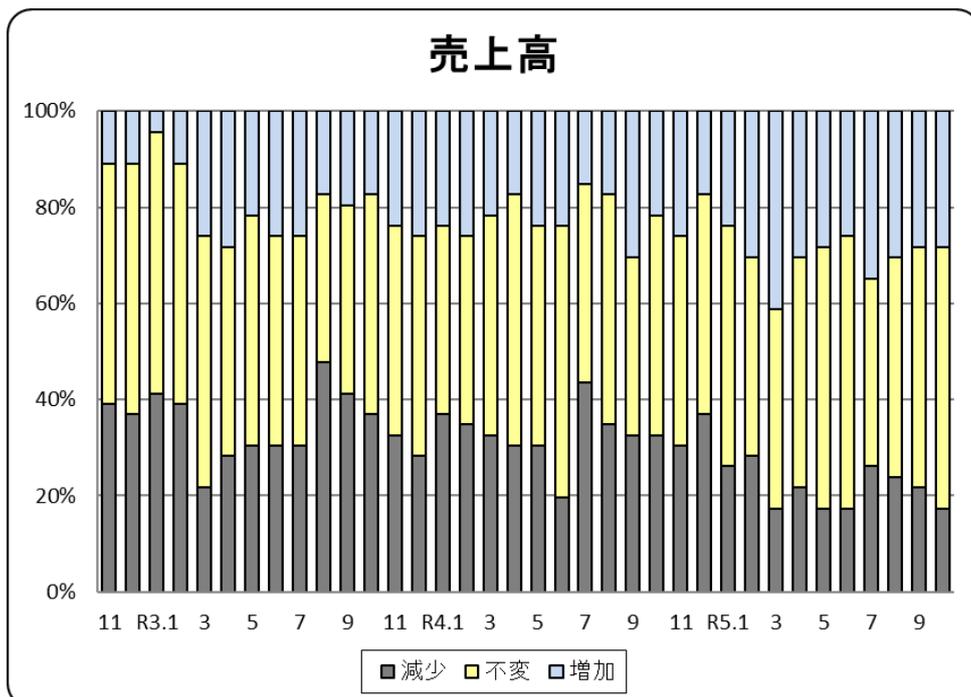
【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、景況感DIは、 $\Delta 8.7$ ポイントで前月から変わらず。売上高DI値は、 $+11$ ポイントで前月より4ポイント増加。収益状況DI値は、 $\Delta 11$ ポイントで前月から2ポイント好転。雇用人員DI値は、 $\Delta 17$ ポイントで前月より6ポイント減少という結果となった。

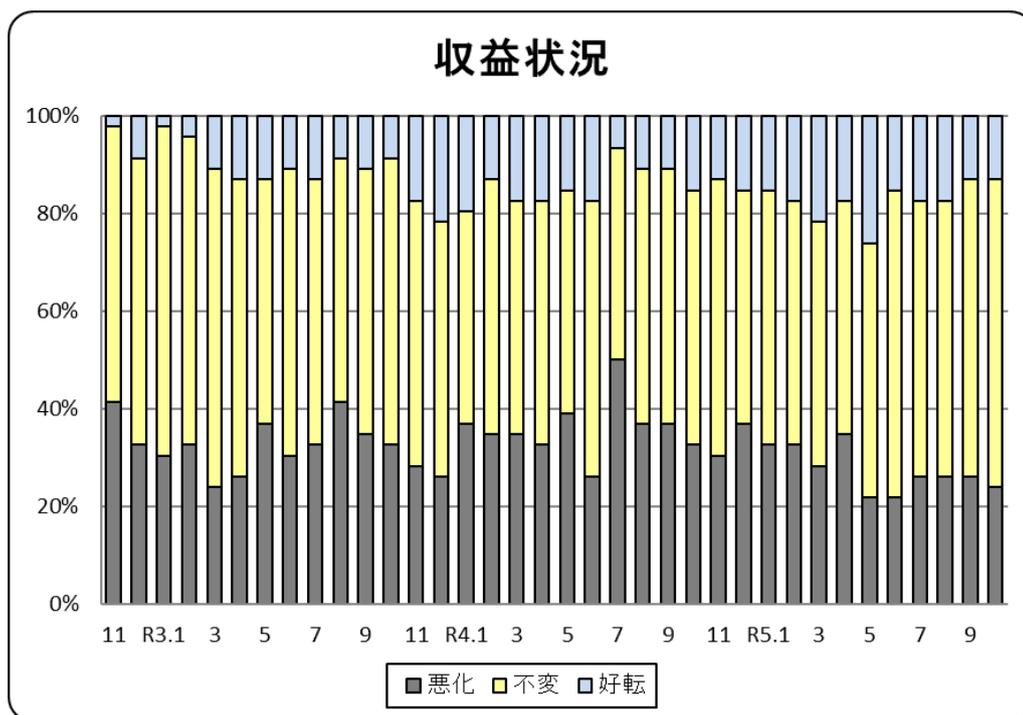
景況の動向は、好転は6組合、悪化は10組合であった。DI値は $\Delta 8.7$ ポイントで前月から変わらず。割合で見ると、好転13%、不変65%、悪化22%であった。なお、製造業の景況感DI値は $\Delta 12$ ポイント、非製造業の景況感DI値は $\Delta 7$ ポイントであった。



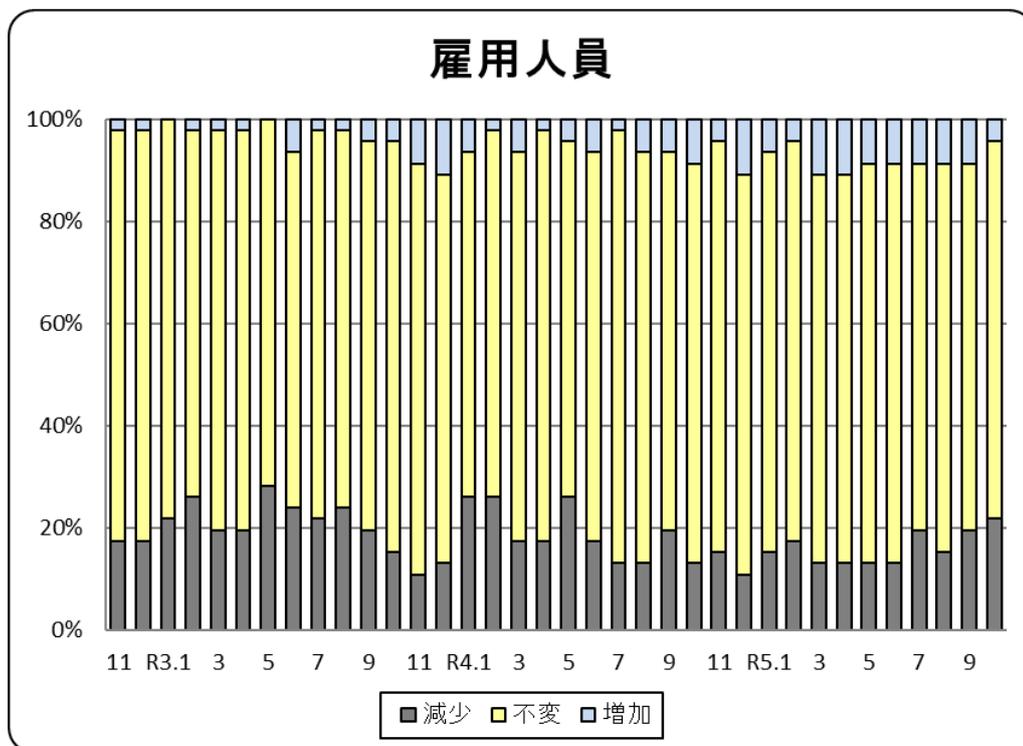
売上高の動向は、増加は13組合、減少は8組合であり、DI値は $+11$ ポイントで前月から4ポイント増加。割合で見ると、増加28%、不変54%、減少17%であった。



収益状況の動向は、好転した組合は6組合、悪化と回答した組合は11組合であった。DI値は△11ポイントで前月から2ポイント好転。割合で見ると、好転13%、不変63%、悪化24%であった。



雇用人員の動向は、増加は2組合、減少は10組合であった。DI値は△17ポイントと先月より6ポイント減少。割合で見ると、増加4%、不変74%、減少22%であった。なお、製造業の雇用人員 DI 値は△6ポイント、非製造業の雇用人員 DI 値は△24ポイントであった。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比)=[(増加・好転組合数－減少・悪化組合数)／調査対象組合]×100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

